

---

# さびしがりのウサギ

ロースト

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

さびしがりのウサギ

### 【Nコード】

N3124M

### 【作者名】

ロースト

### 【あらすじ】

歪み気味少女の独白と未来展望

私はさびしがり屋なの。

私はさびしがり屋

あの頃の私は二人に依存してたね。

二人は迷惑してたんだろうけど、いつもはつきりという二人はそんなこと言わなかった。  
だから信じてたんだよ。

先に裏切ったのは私。  
でも利用したのは二人。

一人で立てなかった。  
自分のことでさえもかかえきれずに  
頼り切っていたの。

二人に半分ずつ、乗せてもらってた。

でも、そんな私に支配者ができたの。  
絶対的な、すべてを預ける人が。

私は二人から離れていった。

二人も厄介払いをしたいと思っていたんだよね。  
だから私があの人に依存していくのを眺めていた。  
私も二人が眺めているのを、眺めていた。

でも、あの人は嘘つきで、ひどい人だから。  
何度も私を突き放す。

私は何度も傷つき、何度も折れた。  
何の前触れもなく、いなくなる。

結局はあの人も私のこと嫌いだったのかもしれない。だけど、私にとってあの人がすべてだったから。

疑って、信じ切れなくて、

それでもすべてを預けていたんだ。

ひとりでは無理だから、そういつて私は楽しめた。

すべてをあなたに負わせて、甘えていた。

私は馬鹿で、かわいそうなぐらい馬鹿で、

何もわかっていなかった。

辛さも苦しみもわからなくて、

わかりたくなくて、すべて預けていたのだから。

終わったのは、あの人がまた、嘘ついたから。

私が、愚かでかわいそうなぐらい馬鹿な私が、そこにいたから。感情を、押し付けた。

それで、おしまい。

あの人は簡単に離れていった。

私は一人じゃ立てない。

だから、また二人に頼ったの。

でも、二人は頼られることを嫌がった。

私にはもう、頼る人はいなかった。

空白の時間帯。

何もかもが真っ白。

新しいもの、わからなかった。

なにも、ない。

私はその場で、つくろい方を覚えた。

二人とは、依存ではなくて、友人になった。

でも、心の奥ではまだ、一人では無理だった。

表面をつくろっても、中は何も変わらなかった。

あの時、私は一人でも、自分を支えられるようになった。  
でも、最低限で、支えるだけ。

歩くなんて、到底できそうにない。

今も、何も変わらない。

依存する人がいない。

歩き出せない。

もう、一人で歩かないといけないのに。

ねえ、いつかの私は、一人で歩けてますか。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3124m/>

---

さびしがりのウサギ

2010年10月17日03時08分発行